

学校教育目標	生き生き日枝っ子 ・「知」自ら取り組み、学び続ける子どもを育てます。 ・「徳」学校が好き、自分が好き、友達も好きと思える子どもを育てます。 ・「体」自ら健康で安全な生活を送ろうとする子どもを育てます。 ・「公」自分たちのまちを知り、好きになり、共に創っていこうとする子どもを育てます ・「開」様々なものの見方や考え方、感じ方のできる子どもを育てます。				
	創立 116 周年	学校長 望月 重晴	副校長 石川 和之	2 学期制	一般学級：17 個別支援学級：9
学校概要	児童生徒数： 546 人		主な関係校： 共進中学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	共進中学校 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
＜問題発見・解決能力＞ ＜言語能力＞ ＜持続可能な社会の創造に貢献する力＞	共進中学校 太田小学校 日枝小学校	小中学校間で学習指導や生徒指導の円滑な接続を大切にし、まちの子どもたちに必要な資質を育てる。 ○児童生徒及び小中職員の交流 ○共有のテーマを柱とし、授業研究の推進 ○児童生徒理解、特別支援教育を中心とする情報交換及び研修の実施

中期取組目標	○子ども一人ひとりの思いに寄り添い、主体的で協働的な学びを充実させます。 ・学習の楽しさを実感し、学びたい、伝え合いたいという思いを高められるようにします。 ・自ら問題を発見し、仲間と協力して取り組む力を育てます。 ○自他を理解し、多様性を大切にすることができる心を育てます。 ・コミュニケーション能力を高め、一人ひとりが自己有用感をもち、安心して学校生活を送れるようにします。 ○まちや人と自らかかわり、大切にしようとする心を育てます。 ・まちや人と繰り返しかわることで、まちの一員としての自覚をもてるようにします。 ○あきらめず、くり返し挑戦する心や体力づくりを進めます。 ・自分の体への理解を深め、自分に合った生活習慣や運動習慣を考えたり、ねばり強く物事にかかわろうとしたりする意欲を育てます。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	個に応じた指導・授業改善	①学校教育目標「生き生き日枝っ子」のイメージを子どもとも共有し、各教科で生き生きと取り組むことができるように授業を工夫する。②生活・総合（なかま）を核としながら、一人一人が願いの実現に向けて考えたり、自分とのかかわりで対象や学習材を捉えたり、生き生きと取り組むことができる学びを創る。各教科の関連を図り、よりダイナミックな学習活動を展開できるようにする。
担当	研究部	
徳	人権教育	○自他の人権を尊重し合い、多様性を大切にすることができる心を育てるために、子ども主体で人権に関する取り組みができるように支援する。学級や学年、委員会活動等で人権に関する活動に取り組む。○誰もが安心して学べる学校に向けて①自分も友達も大切にできるよう、互いの名前を覚える機会を保障したり②担任が一人で抱え込まないように学年や全体で協力したり③インクルーシブを意識した環境作りをしたりする。
担当	学習部	
体	健康教育 食育	①自分のからだと心に興味関心が持てるよう、授業や教材を工夫する。②今年度は特に、家庭と連携しながら運動と歯の健康について重点的に取り組む。③子ども主体で計画された運動集会を行い、楽しく体を動かす機会を設定し、日常的に運動に取り組む態度を養う。④食べ物に興味を持ち、食べることを楽しむことができるように、日枝っ子お話ランチ・食育月間・給食週間の取組を実施、継続する。食育の日も児童の学びと関連させ、理解が深まるようにする。
担当	保健部・学校食育部	
公 開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①児童が自分の成長を主体的に感じることができるように、L- Gateのデータを活用したり、Aiドリルを活用したりすることができるように校内研修の充実を図る。②学年の発達段階、各教科に関連させながら情報活用能力の育成を図る。③友達や家族、地域の人等、他者と関わる活動を充実させることで子どもたちが自分の社会的役割を自覚し、主体的に関わっていけるように支援する。
担当	ICT部・研究部	
いじめへの対応		①日頃から学校運営や学級経営で一人ひとりの児童を大切に、温かい人間関係作りをするとともに、いじめを許さない素地を作る。②子ども会議に向けた取組等、児童にもいじめについて考えられる場や時間を設けていじめに対する意識を高め、いじめをしない、いじめを許さないという行動ができるようにする。③児童が相談しやすいよう一人一台端末での相談や相談窓口の周知をするとともに、教職員間の連携を円滑にし、いじめがあった場合の初期対応を迅速かつ丁寧に行えるようにする。
担当	いじめ対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①誰もが無理なくキャリアステージに合った全員学校運営参画型の学校経営を行うことを目的として、生き生き日枝っ子研究会の部会を5つに分け、役割分担を行う。また、シェアリーダーシップの考えをもとに職務や会議等を編成し直し、子どものための時間を確保し、教職員全員で学校教育目標の達成に向けて取り組む。②メンターチームは、自発的に研修計画を立てて運営できるようにするとともに、年数に応じて相談役の教職員を配置し、安心して授業づくり・学級づくりに取り組める土台を作る。
担当	マネジメント部	
特別支援教育		①一人ひとりを多面的かつ深く見取り、子どもがもつ文化や言葉を尊重し、学びがより「分かる」ように、一人ひとりにあった言語支援や教科支援、環境整備を行う。②Coがコンサルの役割となり、「見合う」「学び合う」をキーワードに、特別支援を重視した授業改善への意識を高める。③外部専門家(スクールカウンセラー・SSW等)との定期的な連携を組み、個に適した支援を行う。
担当	特別支援教育Co	
地域活動		①生活・総合を中心に、各教科においても、地域の材や人と継続して主体的に関われるようにする。②日枝っ子友の会と職員の連携をより円滑にし、保護者と職員が協力して子どもたちの学びを充実させる取組を進められるようにする。③地域コーディネーターを含めた学校運営協議会の方々が学校運営により効果的に参画できるようなシステムを構築していく。
担当	研究部	
児童生徒指導		①誰もが安心できる学校づくり・生き生きと主体的に行動する子どもの育成を目指し、特別支援コーディネーターを中心に児童の情報共有をこまめに行い、児童一人ひとりの実態に合った支援を行い、問題を未然に防ぐようにする。②事案の対応においては、早期発見に努め、児童や保護者の気持ちに寄り添いながら、組織的に丁寧に対応していく。
担当	児童指導・特別支援部	
教育環境整備		①安全面：毎月の安全点検や賞給会議による優先順位付けの仕組みの精度を高める。設備や教材教具に関する課題は、既存の更新サイクルや、各分掌が必要に応じて予算請求を行う。②包摂面：子どもが自分に合った方法で学び、安心して過ごせる環境づくりとして、クールダウンスペースや一人で刺激を抑えた落ち着ける空間の整備について検討する。活用方法や運用も整理し、既存環境の再構成を視野に入れ、関係職員の検討体制のもと段階的に進める。
担当	管財部・営繕部	